UrbanDesignLab.Magazine

2015.10.31 vol. 234

異国の都市へ

VISITING A FOREIGN CITY

M1 砂塚のモンゴル滞在記 p.2
新入生自己紹介 p.4

東京大学
工学部都市工学科／
工学系研究科都市工学専攻
都市デザイン研究室

http://ud.t.u-tokyo.ac.jp/

今月の担当：富田晃史　中島健太郎
編集長：　今川高嶺
編集委員：中島健太郎　高橋舜
中井雄太　黒本剛史　砂塚大河
富田晃史　王誠凱

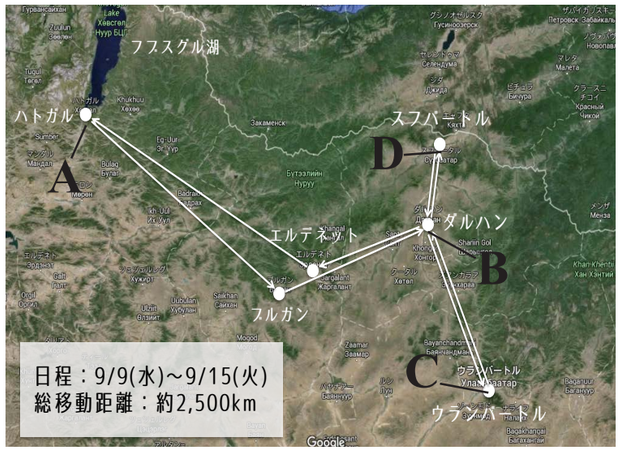
M1 砂塚のモンゴル滞在記

The Journal of Sunazuka's Travels in Mongolia

去年の９月に研究室旅行で杭州に訪れ、その滞在の様子がマガジン 10 月号に掲載されました。今年も M1 の砂塚が９月から約１ヶ月間、JICA のインターンシップでモンゴルに滞在したということで、海外のインターンという貴重な体験を通して、また急速に都市開発が進んでいるモンゴルの今の姿を目の当たりにして何を感じ、何を思ったのか。滞在中に取り組んだ活動の中から主な３つを取り上げて、紹介したいと思います。(編集 :M1 富田)

MONDEP 地方出張の旅

モンゴル滞在の最初の一週間は MONDEP(モンゴル国地域総合開発に係る情報収集・確認調査) の地方出張についていくことに。モンゴルの広大な国土を車で回りながら、各地の観光担当者にモンゴルの観光産業が現在抱える問題についてヒアリングを行った。道中、ものすごい手際の良さで羊をさばくおじさんに感動したり、食中毒で病院に行ったりとハプニングはありつつも、一週間でおよそ 2500km もの距離を大移動。旅行、ヒアリングを通して、モンゴルの観光産業は勃興期であり、今回訪れたウランバートル、ダルハン、スフバートル、ハトガル (エルデネット、ブルガンは通過) はいずれも、歴史的・自然的観光資源のポテンシャルは高いものの、道路の未整備や飛行機の運行本数不足など交通インフラの問題が大きいと感じたようだ。また移動時間が半日にもおよぶ日もあったそうで、車内の人と会話を交わしたり、車窓からどこまでも広がる草原や羊の群れを眺めながら物思いに耽ったりと、日本での日常生活ではなかなかできないような穏やかな時間を過ごせたようである。



▲セレンゲ県、スフバートル市のザハ (市場) の様子。衣料品や食料品など、モンゴル庶民の物資補給の拠点となっている。冬期も営業できるリゾート等、観光業は盛んだが、そこに行くためのインフラ整備が課題。

▲ハドガル村にあるフブスグル湖。世界２位の透明度を誇る水面はまるで海のように透き通っており、モンゴル語でフブスグル・ダライ (フブスグル海) と表現されるほど。しかし近年、道路整備による観光客の増加でゴミ問題が深刻化している。

▲モンゴル第２の都市、ダルハン。人口約 12 万人の工業都市で市内にモンゴル縦貫鉄道が通っている。

▲スフバートル広場に建つウランバートル国会議事堂。東に見える貨物輸送会社の高層ビルが都市開発需要の高まりを思わせる。

住民説明会へ参加

現在、首都ウランバートルへの人口集中に伴いウランバートル市周辺に拡大しているゲル地区は、十分なインフラが整備されておらず、暖房用の石炭を一斉に焚くことによって大量に煙が排出され、さらに盆地で空気が滞留するために、大気汚染が深刻な問題となっている。そうした問題を解決するために、モンゴル建設省、ウランバートル市の都市計画部、JICA の技術協力 PJ チームが一体となってゲル地区のアパート化やタウンハウス化事業に取り組んでいる。しかしゲル地区での開発は、土地の権利等細かい調整がより重要になる事業であるはずなのに、そのことについて住民の理解が十分に得られているのか疑問に感じた。また住民へのヒアリングで、「海外のドナーがやってくれるのは嬉しいが、昔からゲルで生活してきた住民の価値観を考慮してくれるのか」、「アパートのような開放感のない四角い箱の中には住みたくない」という意見があり、それだけでもこのゲル地区開発の問題は十分難しい。住民説明会という最前線の現場を見たことで、モンゴルの都市開発が抱える問題や国際協力の実態を肌で感じたようだ。

▲模型を使いながら住民にタウンハウス化事業の説明をする様子 (左) とタウンハウスの模型 (右)。

科学技術大学でのゲリラ講義

砂塚が所属していた PJ チームのメンバーの一人で、青年海外協力隊としてモンゴル科学技術大学 (以下、科技大) で建築を２年間教えていた石川さんという人が、なんと砂塚の OB(北海道大学の建築出身) にあたる人であった。そのような縁から、石川さんに紹介された科技大の日本語クラスの先生から、せっかくの機会だから学生に講義をしてくれないかと話を持ちかけられ急遽、科技大の学生達に講義をすることとなった。「伝統的生活と建築」というテーマで、モンゴルのゲルと日本の長屋を歴史・場所・空間・関係・課題の５つの点から比較するという内容で講義を行った。日本文化について他国の学生に講義形式でプレゼンをするということは滅多にない貴重な経験だったのではなかろうか。

JICA のインターンでは通常の業務の他に、自主研究の一環で自分の関心のあることを調査・ヒアリングをして発表するというプログラムがある。科技大でモンゴルの建築教育の一端に触れた砂塚は、近年、海外資本がどんどん入ってきて都市の建築需要が高まっているという状況に対して、科技大が国立で唯一、建築学科をもっているにも関わらず、教育環境が十分に整っていないのではという問題意識を持った。そこで砂塚はモンゴルの建築教育について、文献調査や科技大の教員へのヒアリングを行い、モンゴルの建築教育の実態を整理し、学生教員比や各教育機関の連携といった問題の他に、建築デザイン用のスタジオがないこと、モンゴル語訳の書籍不足、ゲルやゲル地区に関する専門家がいないといった課題を挙げた。

＊

今回モンゴルに１ヶ月滞在した砂塚に話を聞きたいということで取材をしました。現地を見てきた彼からモンゴルの様々な都市事情を聞くことができ、私もモンゴルをはじめ都市の成長が著しいアジア諸国の姿を積極的に足を運んでじっくりみてみたいと思いました。お忙しい中、貴重な話をして頂きありがとうございました。■

モンゴルでのインターンを終えて

街を歩いていて面白そうな道があると、ついつい寄り道してしまう癖があります。そんな癖がまた無意識に出てしまったようで、JICA ってなんだか面白そう、とネット上で偶々見つけた道を辿っていったら、いつのまにかモンゴルに着いていました。国家政府間の国際協力を管理する JICA の方、実際に現場で動くコンサルの方、最終的な被支援者であるゲル地区のおじいちゃんなど、沢山の人と話をして、ぼんやりとしか見えていなかった「国際協力」というモノの輪郭がすこしだけ見えたような気がします。

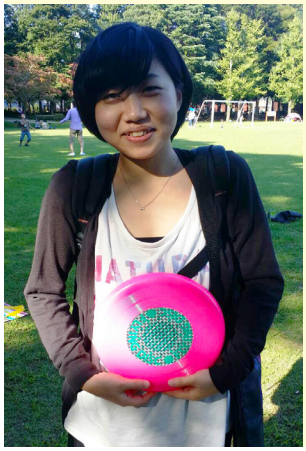
就活を控えたこの時期に、貴重な経験をしました。面白そうな道の先には、やはりなにかあるみたいです。これだから寄り道はやめられません。つくづく良い癖を持ったなぁと思います。

M1 砂塚

秋入学の新メンバー紹介！

Introduction of New Students

修士一年：浜田愛

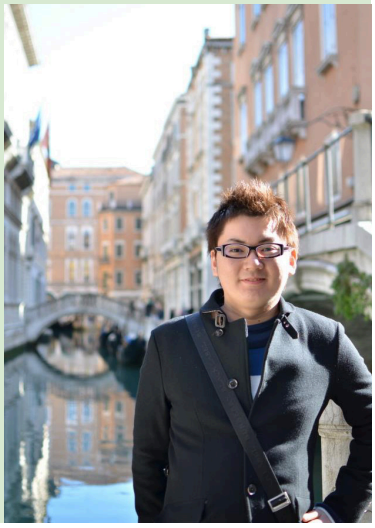


こんにちは、この度 10 月より修士過程に入学しました浜田と申します。この 9 月に工学部都市工学科を卒業しました。都市デザイン研究室で前も後ろも分からないままにがむしゃらに取り組んだ卒業研究では、徳島県の小規模漁村集落において形成されていた移住プロセスを抽出するという研究をさせていただきました。恐れ多くも初めて研究というものに触れた機会でした。地域の持続とは何か、変化を受け入れるという覚悟、卒業研究で悔いの残った課題であるソフトの仕組みと空間とを結びつけた分析や考察や提案の力をしっかりと培っていけたらと思っております。まだまだ未熟な私ですので、先生方におかれましても学生の皆様も、ご指導の程どうぞよろしくお願いいたします！！

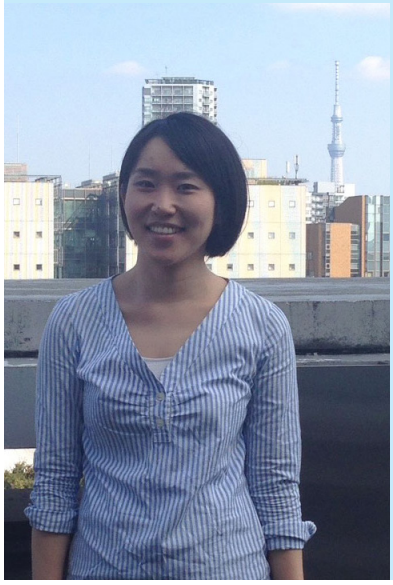
博士一年：宮下貴裕

今学期から博士課程でお世話になる宮下と申します。研究分野は都市計画史で、これまで故郷である静岡市中心市街地における近代都市計画の展開についての研究や、全国の主要地方都市の中心商店街を対象に、戦前期から現在にかけての空間的変化と中心性の継承についての研究に取り組んできました。現在は富士吉田のプロジェクトにも関わらせていただいています。研究対象は国内都市ですが、海外都市のショッピングディストリクトを見て廻るのも好きで、特に北欧と中欧の都市によく行きます。

デザ研というたくさんの仲間で切磋琢磨できる環境で学ばせていただく機会を得ることができ本当に嬉しく思います。皆さん、どうぞよろしくお願いします！



博士一年：土井祥子



2004 年に都市デザイン研究室で修士課程を修了し、その後公益法人での文化遺産の保護に関わる仕事をしていましたが、10 月から博士課程に入学しました。

実務を通じて得たさまざまな地域との出会いやそこで抱いた問題意識をこれからの研究生活の中であらためて咀嚼し、自分の背骨として構築していきたいと思っています。他の大学や研究室と一緒に仕事をさせて頂く中で、都市工やデザイン研を外から見ていた約 10 年を経て、また新鮮な気持ちで 10 階のデスクに座っています。

和歌山生まれ、大阪育ち、中学高校は和歌山の学校に通っていた生粋の関西人です（仲間が若干いるようでとても嬉しい今日この頃！）。皆さんといろいろな議論や作業を共にできることを楽しみにしています。どうぞよろしくお願いいたします。

Information

10 月のウェブ記事

10/22

佐原・秋の大祭

10/9~11 に開催された佐原・秋の大祭。佐原 PJ では佐原を支えてきた担い手に着目した展示を行いました。

10/30

「図説　都市空間の構想力」出版

M2 の中島が、9 月に発刊された「図説　都市空間の構想力」の紹介をしています。

10/31

佐原の町並み建物特別公開

10/24,25 の 2 日間で、「さわら部」が佐原のまちなかの重伝建地区にある商家の建物公開を実施しました。

是非ご覧下さい：http://ud.t.u-tokyo.ac.jp/ja/

11 月の予定

10/29~11/8 佐原 PJ: 佐原まちなか文化祭
10/31~11/3 神田 PJ: アーバンキャプチャートーキョー
11/9: 20c 都市遺産 PJ シニア MTG
11/11: 研究室会議

編集後記　富田　晃史

10/23,24 で柏の葉にぎわい PJ で駅前にある UDCK の前で屋台を出しました。我々学生チームは、その場で撮影したお客さんの顔写真をレーザーカッターでコースターに刻印して配布するという企画で屋台を出しました。当日は子連れの母親が行列をなすほどの大盛況で、焼き鳥や家庭料理といった一緒に出店していた他の屋台にもベビーカー、あるいは子どもの手を引きながら並ぶその光景は、屋台の新しい可能性を感じるものでした。来月も出店するので今回の反省を活かしつつ柏の葉駅前のにぎわいづくりに貢献していきたいです。